

教科・学科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	学年	1
使用教科書	ON! 1		発行者の番号・略称	89 友社		教科書の番号	音 I 704
指導者名			副教材等	なし			

## 1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

## 2 学習の計画

以下のことについて、年間を通して学ぶ。

単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)
みんなで歌おう	校歌 翼をください 少年時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸や口の形など発声の基本を学習する。</li> <li>歌うことの楽しさを感じる。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>
	音楽の設計図 五線譜を見てみよう リズム・メロディー	<ul style="list-style-type: none"> <li>音符、休符の読み方や、楽譜の基本的な仕組みを理解する。</li> <li>楽譜を見て歌う力(視唱・読譜)を養う。</li> </ul>
ミュージカル	「アラジン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。</li> <li>劇中で音楽がどのように使われているか、その効果を理解する。</li> <li>曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>
ヨーロッパの歌	オーソレミオ(イタリア語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>イタリア語の発音の特徴を理解する。</li> <li>楽曲にあるリズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解する。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>
	ハイドンレースライン(ドイツ語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ語の発音の特徴を理解する。</li> <li>ドイツ語の言葉(歌詞)のリズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解する。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>
日本の心 世界の心	郷土の伝統音楽 アジア地域の諸民族の音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の伝統音楽や、アジア地域の音楽の特徴について興味を持って鑑賞することができる。</li> <li>それぞれの音楽の共通点や違いについて考える。</li> <li>社会にとっての音楽の意味や、価値について考える。</li> </ul>
器楽(リコーダー)	リコーダーソロ・アンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの基本的な奏法、演奏表現に必要な技術を学習する。</li> <li>それぞれの楽曲の演奏を行い、互い(上下パート)に聴き合いながら、楽曲の曲想とリコーダーの音色を作り出す奏法の関係を理解する。</li> <li>楽曲のイメージをもって、演奏表現を工夫する。</li> </ul>
楽典	音名口	<ul style="list-style-type: none"> <li>音の高さと鍵盤の関係や、臨時記号の意味を理解し、読譜の力を養う。</li> <li>日本語、ドイツ語、英語の音名を学び、鍵盤の位置や音の高さと併せて理解することができる。</li> </ul>
	和音、コードネーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>和音の構造を学習し、その響きを聴き取ることができる。</li> <li>楽譜の中に書かれているコードネームを読み、演奏に生かすことができる。</li> </ul>
歌唱・創作	ヴォイス・アンサンブル 合唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜から正確なリズムを読み取り、声を発して表現する。</li> <li>それぞれの役割(パートごとのリズム・言葉など)を果たし、互いに聴き合いながら、リズムの関係や声の響きの調和を作り出す。</li> <li>楽曲の曲想について、互いに共通の意識を持って、音楽を作り出すようにする。</li> </ul>

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

### 3 評価の観点

知識・技能	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
思考・判断・表現	・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、表現している。 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解して鑑賞できる。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、題材に関心を持ちながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科・学科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	学年	1
使用教科書	高校生の美術1	発行者の番号・略称	116 日文	教科書の番号	美 I 702		
指導者名		副教材等			なし		

## 1 学習の到達目標

- ・造形的な視点について理解を深め、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現できる。
- ・造形的な視点から主題を生成し、創造的な発想・構想で、見方や感じ方を深めることができる。
- ・主体的に創造活動に取り組み、感性を高めながら美術文化に親しむ態度を養う。

## 2 学習の計画

以下のことについて、年間を通して学ぶ。

単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)
オリエンテーション・鑑賞	「美術とは何か」	・美術の学びの意味や広がりについて、作品鑑賞を通して考える。
表現: 絵画	「身近なものを見つめて」 (鉛筆による描画表現)	・身近なものを見つめ直し、そのよさや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことをもとに、鉛筆の特性を生かしながら描く。 ▶モチーフの正しい形体をとらえる。 ▶光の当たり具合を確認し、陰影を表現する。 ▶主題、構想にしたがい、鉛筆の特性を生かして作品としてまとめる。 ▶完成作品を鑑賞する。
表現: デザイン	「ことわざデザイン」 (意味を伝える文字デザイン表現)	・ことわざの意味が伝わるように、ことわざの主要な文字をデザインしたり組み合わせたりして、画面をバランスよく効果的に構成する。 ▶文字デザイン発想の基本について漢字1文字で練習する。 ▶選んだことわざの意味から発想を広げ、構想を練る。 ▶アイデアを1点に絞り、マス目入り用紙に下描きする。 ▶パネルに下描きを固定し、トレースダウンする。 ▶配色計画にそって着彩する。 ▶全体視に努め、修正も含めて作品を完成にもっていく。 ▶完成作品を鑑賞する。
鑑賞: 日本絵画	「鑑賞TIME」 (六曲一双の屏風絵鑑賞)	・作品に込められた思いについて、自分なりの解釈を打ち立てるとともに、作者の思いや他者の解釈に触れて、自身の見方や考え方を深め広げる。 ▶「見る」…描かれているもの(事実)を隅々まで確認して書き留める。 ▶「考える」…事実をもとに作品に込められた思いについて自分なりの解釈をまとめる。 ▶「話す」…自分の解釈を他者に伝える。 ▶「聞く」…他者の解釈や作者の思いを聞いて、見方・考え方を深める。
表現: デザイン	「砺波工業高校PRポスター」 (メッセージを伝えるデザイン表現)	・社会におけるポスターの役割を理解し、効果的なレイアウト、フォント、配色を探りながら、本校のよさを社会に発信するポスターを制作する。 ▶ポスターの構成要素や種類、役割について学ぶ。 ▶本校について調査し、本校に対するよい印象を深める。 ▶アイデアスケッチ(イラストとコピーの両方)する。 ▶アイデアを1点に絞り、マス目入り用紙に下描きする。 ▶パネルに下描きを固定し、トレースダウンする。 ▶配色計画にそって着彩する。 ▶全体視に努め、修正も含めて作品を完成にもっていく。 ▶完成作品を鑑賞する。
表現: 絵画・デザイン	「切り絵に挑戦!」 (紙と刃物による絵画・デザイン表現)	・刃物の切り口による独特の造形表現である切り絵の制作を通して、その味わいや美しさを感じ取る。 ▶参考作品の鑑賞や切り取り練習を通して、切り絵の特徴を理解する。 ▶下絵を制作する。 ▶下絵を黒紙に固定し、効率的な手順を考えて切り取る。 ▶台紙に貼り付け、周りの不要部分を切り落として仕上げる。 ▶鑑賞作品を鑑賞する。

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

### 3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li><li>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li></ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</li></ul>

教科・学科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	学年	1
使用教科書	書 I		発行者の番号・略称	38 光村		教科書の番号	書 I 705
指導者名			副教材等	なし			

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 学習の計画

以下のことについて、年間を通して学ぶ。

単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)
書道で学習すること 書写から書道へ	書道の三分野 臨書・鑑賞・創作 の学習方法 芸術科書道と国 語科書写の違い	書道の三分野を確認し、臨書・鑑賞・創作の学習を通して、自己の創造的な表現に生かすことを理解する。 書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。
(漢字の書) 楷書	漢字の変換とさまざま な書体 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑	それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の違いを理解する。 楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質、用筆法・運筆法を学ぶ。
作品制作	刻字(文化祭作品)	刻字に必要な用具と制作手順について理解する。 陰刻か陽刻かを選び、刻字に取り組む。
行書	蘭亭序 風信帖	行書古典の臨書学習により、行書の特徴を踏まえ、用筆法・運筆法を学ぶ。 楷書と行書の違いを理解する。
漢字作品制作	楷書・行書による 創作	これまでに学んだ古典の特徴や表現技法を生かし、創意工夫し、作品を制作する。
(仮名の書)	平仮名・片仮名・ 変体仮名・連綿 蓬莱切	仮名の成立と種類について学ぶ。 基本的な筆使いを練習し、仮名特有の用筆・運筆を習得する。
仮名作品制作	古筆を生かした創作	これまでに学んだ古筆を参考にしながら、平仮名、変体仮名の組み合わせ方や連綿のしかた、用具・用材、全体構成を考える。
篆刻	姓名印制作	篆刻における印の種類、必要な用具・用材を理解する。 制作手順を理解する。
(漢字仮名交じりの書)	漢字仮名交じりの 書の制作 (心に響く言葉を書く)	書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。
鑑賞	刻字、漢字仮名 交じりの書の作品 鑑賞会	作品を鑑賞し、感じたことを自分の言葉でまとめ、意見交換する。

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

### 3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・書の表現の方法や形式,書表現の多様性について幅広く理解している。</li><li>・書写能力を向上させるとともに,書の伝統に基づき,作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け,表している。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・書のよさや美しさを感じ,意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり,作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え,書の美を味わい捉えたりしている。</li></ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</li></ul>